

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 7 日現在

機関番号：34522

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22560539

 研究課題名（和文） 都市観光における資源と周遊行動の時空間スケールに着目した
マーケティング戦略手法

 研究課題名（英文） Development of Area Marketing & Management Approach (AMMA)
for Urban Tourism Relating The Resource Locations with Spatial
and Temporal Excursion Behavior Patterns

研究代表者：

西井 和夫 (NISHII KAZUO)

流通科学大学・総合政策学部・教授

研究者番号：80115906

研究成果の概要（和文）：

本研究は、都市観光マーケティング戦略の策定方法の構築に向け、需要側と供給側の両者の時間的・空間的スケールに着目し、魅力的で持続的な観光地形成のためのエリアマーケティング・マネジメントアプローチ（以下 AMMA）の実証的検討を行った。その結果、「伊勢観光まちづくり」を対象としたリサーチの実施とそのデータ解析を通じた方法論的検討および都市観光マーケティング戦略の策定・評価方法の有効性検証に関する有意義な成果を得た。

研究成果の概要（英文）：

The study aims to empirically analyze applicability of the Area Marketing & Management Approach (denoted as AMMA) to making a policy decision on formation of more attractive tourist areas. The temporal and spatial scale of both tourism resource distribution and tourist excursion behavior patterns is here focused on. It means that both of supply and demand factors determining attractiveness of tourism destination areas should be taken into consideration. This report intends to summarize the results obtained from these two subjects. It represents the results of developed marketing method for a specific tourist area such as, the surveying as a marketing research, the accessibility analysis and modeling of tourist area formation. It also pulls together fact-findings from these discussions as well as those from our current studies on the related subjects.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011 年度	700,000	210,000	910,000
2012 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,400,000	720,000	3,120,000

研究分野：工学

科研費の分科・細目：土木工学、土木計画学・交通工学

キーワード：交通計画、都市観光、エリアマーケティング、エリアマネジメント、観光圏形成

1. 研究開始当初の背景

これまでの国内外の関連研究において、休日交通として代表的な買物交通と、いわゆる観光地での観光活動にかかわる観光地交通とは、各々別途の研究対象としてみなされる場合が多かった。しかし余暇時間の増大や生活様式の変化に伴い、これらの交通への社会的ニーズが高まる中で、両者を包括的に捉えた交通計画手法の構築のための研究に期待が寄せられている。この観点は、従来の観光地交通に関する諸研究の中でも都市型観光地交通を対象としたケースや都市圏休日 PT 調査のケースの中で議論されてきているが、体系づけられた検討整理までには至っていない。

最近のわが国の休日・観光交通に関する諸研究の特徴を挙げるとすれば、課題対応型の調査分析手法の体系化に向けて、より実践的な取組みがなされている点であろう。申請者ら(2004)はすでに、その体系づけ作業に着手し、4つのタイプ(広域周遊観光交通、自然景勝地型観光地交通、都市圏休日・都市型観光地交通、休日地区・イベント交通)に分類して、それぞれについての計画課題とこれらへ対応するための調査-分析-予測評価の流れに即した調査手法の検討を土木計画学研究委員会休日・観光交通研究小委員会を組織して鋭意進めてきている。この中で、『都市観光(回遊活動)』は、「都市型観光地交通」のタイプに属するものとして捉えられている。一般的には両者にとって共通的な計画課題も多いが、いわゆる観光交通論と観光論との相違のように議論の方向性が異なる点もあり、したがって、両者を包括し、かつ対応

すべき課題に即した新しい接近法(調査分析手法)の開発が必要である。(西井・近藤他(2007)参照)

また、この着想は、2000年以降のビジット・ジャパン(2002)、観光立国推進基本法(2006)、そして観光圏整備計画(2008)といったグローバル観光戦略および国土形成論の展開にも対応するものと理解している。とくに複数の観光地の連携により観光客の来訪・滞在を促進する観光圏の形成・整備によって、都市・地域再生や地域社会の持続的発展を目指した戦略的展開に重要な役割をもつことは明らかである。

一方、都市(とくに、世帯と従業者の立地と配置)と交通システムとの関係性の観点から、都市構造に起因する都市経済問題の解決といった、より広範な計画課題への取組みの必要性が叫ばれている。人口減少及び生産人口減少期において、経済的活力向上には、まず顧客対象としての都市圏内および都市圏内外の交流人口の確保が不可欠となる。またこれら顧客の都市的活動を支える基盤施設整備を前提として、都市圏での魅力的で活発な購買・消費活動需要の創出を促す有効な都市・交通戦略が求められている。そこで本研究では、都市再生や持続的発展に資する戦略の対象として「都市観光」に着目している。上記の研究小委員会活動および都市観光回遊行動特性に関する基礎分析を踏まえて、都市圏における休日活動のうちで今後の都市再生の鍵となる『都市観光』を明示的に取上げ、より包括的な計画課題への対応とともに、新規都市観光需要の創出を定量的に把握・評価するための調査分析手法の開発が最重要

課題であるとの認識から着想するものである。

ここで『都市観光』とは、「都市居住者にあつては日常生活から離れ、また都市来訪者にあつてはその訪問・滞在を通じて、当該都市において非日常的な時間・空間を過ごす（消費する）活動」と定義できる。この非日常の時間空間は、訪問者にとっての表現であり、そこにはそのサービスを提供する日常的な提供者（別の都市居住者）が存在し、後者にとっては祭りやイベントを除けば日常の時間空間なのである。その意味で、都市観光をどのように捉えるべきかについて、当該都市への訪問者がどのような非日常的な時間空間でのサービスを期待しているのかという論点だけでなく、都市観光に関係するサービスを提供（供給）する側（行政や交通事業者そしてサービス業観光関連事業者）の魅力的で持続的な受け皿づくりもまた重要な論点となる。このように都市観光需要は多様な主体による形成されるが、さらに上述した人口減少社会の到来を背景として、もはや都市・交通戦略においては需要を予測するのではなく、如何に需要を創造できるかが必要で、そのためにはやはり市場を創造する「マーケティング手法」に依拠することが基本であると認識したのである。

2. 研究の目的

本研究では、都市観光におけるマーケティング戦略の策定方法の構築に向けて、需要側のツーリストの周遊行動パターンと供給側のツーリズム marketer が整備対象とする都市観光資源との両者の時間的・空間的スケールに着目することにより、魅力的で持続的な観光地（圏域）形成のためのエリアマーケティング・マネジメントアプローチ(Area Marketing & Management Approach:以下

AMMA と呼ぶ)の実証的検討を行う。本研究は、申請者らがこれまで蓄積してきた都市観光マーケティングの基礎的成果をもとに、観光地（圏域）としての「都市（圏）」とツーリストの行動特性の両者の時空間特性に着目したユニークな接近法の開発とその実践的展開を目的とする。

3. 研究の方法

本研究では、以下の都市観光戦略策定法に関する実践的な課題について、AMMA にもとづき実証的に検討することを目的とする。この検討は

[1]AMMA における定量的なマーケティング・リサーチ手法の開発適用

[2]魅力ある持続的な観光地形成のための都市観光マーケティング戦略の体系化検討の2つに大別できる。研究期間の初年度においては、主として特徴的な都市観光を対象としたリサーチの実施とそのデータ解析を通じた方法論的検討を行い、2年目は調査分析結果を踏まえながら都市観光マーケティング戦略の策定・評価方法の有効性検証を行う。最終年度は、2年間の成果を踏まえて関連分野を包含した体系化の検討とともに、研究成果のとりまとめを行う。

4. 研究成果

本研究は、基本的には Urban Tourism Marketing のアプローチを土台としているが、それが主として欧米で開発されたものであることから、上記の研究目的を遂行することにより、まずわが国への適用面での課題の抽出と改善の方向性を示すことができた。すなわち、既存の欧米研究[(参考文献):Bonita M. Kolb; Tourism Marketing for Cities and Towns, Elsevier 2006]のアプローチのプロセスとは共通部分は多いものの、都市概念、

地域コミュニティ、観光行動形態、観光目的、などいわゆるカルチャーの違いによる考え方の相違がまず克服する必要があった。申請者らはすでにこの参考文献の訳書（近藤監訳「都市観光のマーケティング」多賀出版, 2007）をベースとして、実証的な観光マーケティング手法の適用結果を踏まえた対象都市（エリア）の都市観光政策・戦略について施策提言・評価したことが本研究の最大の成果であると考えている。また、本研究は、これまでの観光地交通や休日・観光交通行動研究で蓄積された調査分析手法を発展させ、戦略的都市観光マーケティング戦略の策定評価法の開発と実践的展開を目指したものであり、都市観光における AMMA としての手法の実証的検討を行う点で独創的であるとともに、その学術的意義も関連分野を包含する体系化検討を試みている点と併せて非常に意義深い研究であるといえる。

また、この観光マーケティング手法の構築への取組みについても評価できる。というのは、近年のグローバルな国際観光論や国土形成論レベルに限らず地域レベルにおいても、都市・地域再生と地域の持続的発展のために『都市観光』を軸に据えた都市戦略の展開への期待は大きいからである。そのような都市にとっては、この提案手法はまさに「バイブル」となり、一方すでに都市観光ブランドの確立した都市にあっても、この「バイブル」によって、自市の観光政策や戦略の「再点検」が可能となる。既存イメージに安住している観光都市は再考を迫られるところも出てこよう。21世紀は人口減少の中で各都市とも昼間人口、来訪者増加に期待を寄せるところが大きく、この研究からのヒントは政策立案に大きな貢献をもたらすと考えられる。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線）

〔雑誌論文〕（計5件）

- ① 西井和夫、近藤勝直、江守昌弘、横山 憲、観光まちづくりの長期的戦略課題：伊勢式年遷宮交通マネジメントを事例として、第27回日本観光研究学会全国大会論文集、査読無し、第27巻、2012、325-328
- ② K. Sasaki and K. Nishii, Study of Blog Mining for Examination of Tourist Travel Behavior in Japan, Journal of TRB, refereed paper, No.2285, 2012, 119-125
- ③ H. Kim, Y. Chung, K. Nishii & B. Jung, The Effect of Accessibility Improvement on Tourist Excursion Behaviors, KSCE Journal of Civil Engineering, refereed paper, Vol. 15, No. 8, 1443-1448
- ④ 岸野啓一、西井和夫、近藤勝直、佐々木邦明、世界遺産高野山における観光まちづくりのための社会実験、交通工学、査読無し、Vol.46, No. 1, 2011, 44-49
- ⑤ 西井和夫、近藤勝直、佐々木邦明、観光力指標としての観光地アクセシビリティに関する考察：エリアマーケティング・マネジメント (AMMA) の視点から、第25回日本観光研究学会全国大会論文集、査読無し、第25巻、2010、261-264

〔学会発表〕（計8件）

- ① 西井和夫、金野幸雄、江守昌弘、横山憲、地域交通円滑化から観光まちづくりへの展開：第62回式年遷宮を迎えた伊勢市をケーススタディとして、第47回土木計画学研究・講演集、査読無し、CD-ROM, 2013
- ② 西井和夫、近藤勝直、佐々木邦明、観光地における資源分布と周遊性を考慮した時空間アクセシビリティ指標、第44回土木計画学研究・講演集、査読無し、CD-ROM, 2011
- ③ K. Nishii, K. Kondo & K. Sasaki, The Accessibility Measure as A Tourism Potential Index, The 18th EIRASS Conference in San Diego, CD-ROM, 2011
- ④ 西井和夫、近藤勝直、大矢正樹、小規模な都市と観光地における魅力的な圏域形成のための基本的課題、第42回土木計画学研究・講演集、査読無し、CD-ROM, 2010

6. 研究組織

(1) 研究代表者

西井和夫 (NISHII KAZUO)

流通科学大学・総合政策学部・教授

研究者番号：80115906

(2)研究分担者

近藤勝直 (KONDO KATSUNAO)

流通科学大学・サービス産業学部・教授

研究者番号：70026300